

夏の調査を行いました

昆虫の調査を6月10日に、植物の調査を7月15日に行いました。観察した生き物を紹介します。



ヤマトシリアゲ



モリチャバネゴキブリ

< 生き物の都会 >

調査も2回目を迎えました。日なたが多く、単調な環境の白屋集落跡ですが、慣れてくるとどこにたくさんの種類がいるかがわかってきます。

大切なキーワードは「水」です。谷に近い八幡神社跡の社叢林周辺は、水が集まる地形になっている場所があり、虫だけなら、白屋のほとんどの種類が観察できるスポットです。神社に守られた鎮守の森の木々も蒸散した水をこの空間の中にとどめ、空中湿度を維持する働きをしています。

生き物にとって大切な「水」があるところが野生生物にとっても暮らしやすい場所なのです。



八幡神社社叢林



八幡神社社裏のシャガ草地

< 植物のコーナー >

サツキ

かつては吉野川の岩肌にごく普通にあったサツキですが、伊勢湾台風で激減した上に、大滝ダムで多くが水没しました。

石垣には移植されたと考えられるものが多く残っていますが、ススキにおされて生育が危ういものも出てきました。

クロアゲハが吸蜜に訪花しているのも観察できました。



被覆されるサツキ



サツキに訪花するクロアゲハ



ウチワサボテン (オープンティア属の一種)

メキシコ原産と考えられるサボテンの一種。栽培されていたものが逸出して定着していました。

チョウセンアサガオ

南アジア原産。植栽されていたものの逸出だと考えられます。アサガオと名がついていますが、花が似ているだけの他人の空似で、ナス科の植物です。夕方に開花する特徴があります。強毒草としても知られているので、注意が必要です。



< 昆虫コーナー >



ヒナバッタ♀



ヒナバッタ♂

オス 19～23 mm、メス 25～30 mmのバッタのなかまです。八幡神社跡周辺の草むらで、「ジキッ、ジキジキジキッ」という鳴き声がします。足もとを観察すると、あちこちにヒナバッタが翅と後脚を擦りあわせて鳴いていました。

彼らは十分に水分が取れないと、半日程度で死んでしまうということなので、この辺りは水分を摂取するのに十分な環境なのだと考えられます。



マメコガネ

体長1cmほどの小さなコガネムシで、日本の在来種です。北米では移入定着し、“Japanese beetle”（ジャパニーズ・ビートル）と呼ばれています。北米ではあまり天敵がおらず、大豆やトウモロコシを食い荒らす悪名高き農業害虫になってしまいました。ペットなど安易な生き物の移動は日本のみならず世界中で問題になっています。

白屋では、イタドリの葉っぱを食べているところでした。



ミドリヒョウモン

前翅の付け根から先端までの長さ（前翅長）35-40mmのタテハチョウ科のチョウ。

写真を見て足が何本あるか数えてみてください。きっと4本に見えることでしょう。昆虫は足が6本と教わりますが、タテハチョウ科のチョウは前足が退化して短くなり、見た目には4本に見えます。よく見ると頭部と前の脚（中脚）の間に小さく折り畳まれた前脚があります。この足は足としては役に立ちませんが味を見るため舌のような役割があります。

< し の び 奇 る 危 険 な 外 来 種 >



ヨウシュヤマゴボウ



ナルトサワギク

ヨウシュヤマゴボウやアメリカオニアザミは大きいものでは背丈を超えるものも出てきました。根も頑強なので駆除も大変です。

ナルトサワギク（特定外来生物）は吉野川沿いの分布は白屋付近が最上流部です。ここで食い止めたいものです。